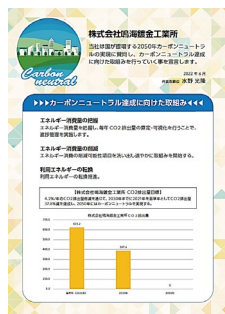




カーボンニュートラル

■カーボンニュートラル宣言

鳴海鍍金工業所は、2022年7月にカーボンニュートラル宣言を行いました。国際社会全体でカーボンニュートラルの実現が求められる中、日本政府としても2021年に当時の菅総理大臣が2050年までのカーボンニュートラル達成を表明しました。当社としても、カーボンニュートラル実現に向けて行動していくために、社内外に向けて宣言を行いました。2030年までに2021年を基準年としてCO2排出量37.8%削減を行い、2050年にカーボンニュートラルを達成します。



カーボンニュートラル宣言

算定目的	排出量把握と削減目標の設定 気候変動対策への取り組み 今後予想される取引先対応
算定基準	GHGプロトコル企業基準に準拠
時間的範囲	直近の1事業年度
運営境界の設定	Scope1（エネルギー起源のみを対象） Scope2（電力のみを対象）
削減目標	SBT1.5°C水準に整合した目標

■CO2排出量算定

当社の2020年のScope1、2のCO2排出量は、623.2t-CO2になります。

運営境界	活動	排出源	排出量 (t-CO2)	排出割合 (%)
Scope 1	事業活動	灯油	4.2	0.7
		輸送機器	8.0	1.3
	合計		52.1	8.4
Scope 2	購入電力	電力	571.1	91.6
	合計		571.1	91.6
合計			623.2	100.0

■削減方法

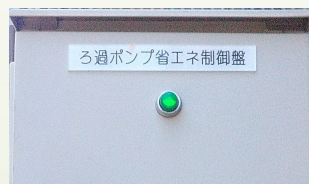
算定したCO2排出量を、SBT1.5°C目標に整合した水準で削減目標を設定しました。カーボンニュートラル実現に向けて取り組みを進めています。

カテゴリー	具体的な取組実施内容
エネルギー消費量の把握	①CO2排出量の算定を毎年実施 ②エネルギー使用量のグラフ化など、省エネの取組内容・数値の見える化
エネルギー消費量の削減	①省エネ機器（高効率の照明や空調、熱源機器）の導入 ②運用改善（設備の運転時間短縮、空調機フィルター等の清掃、冷暖房設定温度の緩和等）の実施
利用エネルギーの転換	①営業車・社用車を順次ハイブリッド車及びEV車に切替える

省エネの取り組み

■設備の省エネ化

2015年に環境配慮型省エネルギーシステムを導入し、電灯設備と動力設備を省エネ化しました。省エネ診断を実施し、診断結果に基づいたオーダーメイドでの省エネシステムであり、導入後も、無理することなく無駄なエネルギーを徹底的に省いています。



省エネ制御盤

■LED照明の設置

当社では、事務所、工場にLED照明を設置しています。LEDは蛍光灯よりも高い照度を保つことができ、省エネ効果も高いため、消費電力・CO2排出量の削減に繋がっています。大きなメンテナンスも不要で耐用年数も長いいため、廃棄物削減効果にも繋がっています。



LED照明



環境に関する方針

■ ISO14001の認証取得

鳴海鍍金工業所は、2019年にISO14001を取得しました。ISO14001は製品の製造やサービスの提供等、自社の活動による環境への負荷を最小限にするように定めた仕様書で、取得した企業は地球環境へ配慮した企業活動を実施していると国際的に認知されます。当社ではISOに基づき、環境関連法令の遵守・管理を行い、PDCAサイクルを意識し、環境マネジメントを行っています。また、毎年定期審査においても重大な指摘は受けていません。



ISO14001

■ 環境マニュアルの作成

鳴海鍍金工業所では、環境に配慮した事業活動を行うため、環境マニュアルを作成しています。汚染対策や騒音防止等の対応を全社員に周知して、マニュアルに沿った作業を行うことにより、限りある環境資源の保全に貢献しています。

廃棄物管理と騒音防止

■ 廃棄物削減の取り組み

めっき処理を行う際にスラッジが発生します。スラッジは排水と混ざり、産業廃棄物として廃棄業者に引き取ってもらいますが、当社では廃棄物削減のために乾燥放置処理を行っています。スラッジは含水率が高く70%以上が水分であるため、水分を飛ばし乾燥放置をすることにより廃棄物の大幅な削減に繋がります。



スラッジの乾燥放置処理

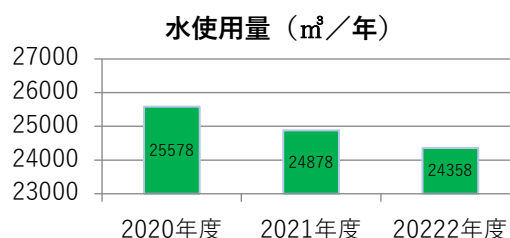
■ 騒音防止対策

事業を継続する上で近隣への騒音対策は非常に重要になります。当社では、騒音測定器を使用し、常時騒音を計測しています。騒音を最小化することにより、地域社会との良好な関係を維持しています。

水資源

■ 水使用量の管理・削減

鳴海鍍金工業所は、めっき加工における表面処理を行う事業者として、水質汚濁防止に積極的に取り組んでいます。現在の表面処理は非常に多様化しており、めっきする重金属の種類やめっき浴の違いにより、排水処理設備の有無、処理フロー、処理薬品の選定に付いて様々な方法がとられています。当社では水使用量をしっかりと管理し、最適な処理により水使用量削減を図っています。



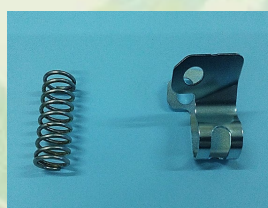
■ 社内基準の厳格化

めっき処理における亜鉛排出基準は2ppm以下ですが、厳しい基準であるため業界では4ppm以下も暫定基準で認められています。当社では長年2ppm以下を遵守していますが、環境汚染対策が更に重要になる中、現在は1.5ppm以下を目標に取り組みを強化しています。

環境市場機会

■ 完全環境対応表面処理の開発

めっき処理業界では、長らく六価クロムを使用してきました。近年では、環境負担の大きさが指摘され、三価クロムに移行するメッキ会社も増えてきました。一方で、耐食性に関しては、六価クロムと比べれば劣る点に課題があります。当社では、六価クロムを全く含まないこれからの時代に採用される完全環境対応表面処理を開発し、今後販売強化を図っていきます。



六価クロムを含まないめっき処理